

イトヨと自然環境にやさしい施設

「イトヨの里」整備にあたっては、イトヨの保護や地下水の涵養にまで、まわりの環境と調和するよう考えました。

●生息池と観測池

もともとの本願清水が「生息池」、それにつながる新しい池が「観測池」です。2つの池は防水シートが施されています。イトヨは広くなった池を自由に泳ぐことができ、イトヨの生息空間が広がりました。

●自然の湧水

本願清水の地下水水位が2メートルの高さまで上がった時には、湧水パイプやボードウォークの下から、自然のままの湧水が池に入ってくるようになっています。

●防水構造

近年、地下水水位が下がり自然の湧水が少なくなりました。そこでポンプで汲み上げた地下水を有効に使うため防水シートで受け、常時、池に水が満たされるようになっています。

●池の面積

イトヨは水温が高くなると生きていけません。周辺に水枯れがでないよう揚水量を制限し、その水量で、一定の水温を保つことのできるよう池の面積を決めています。

●地下水の再利用

池に給水している地下水をそのまま排水せずに、下流で汲み上げ、トイレや散水などに再利用しています。また、雨は浸透枡などで、できるだけ地下にしみ込ませています。

●池の底

池の中は、防水シートの上に厚く砂を敷いています。この砂はイトヨが巣を作りやすく、また他の水生生物が生息しやすいように、特別に選んだ砂です。

●池の深さ

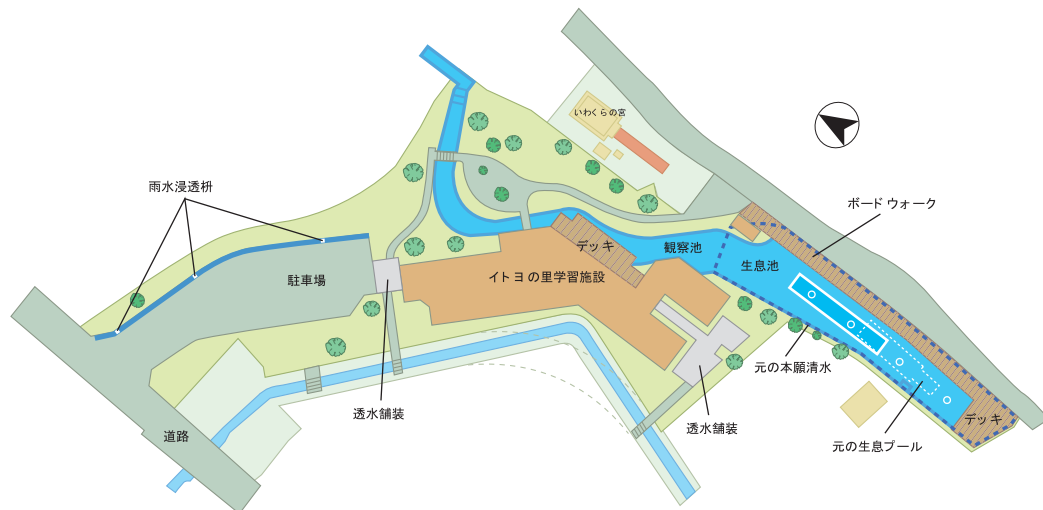
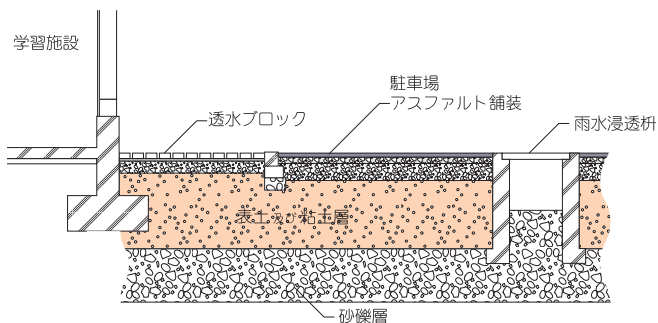
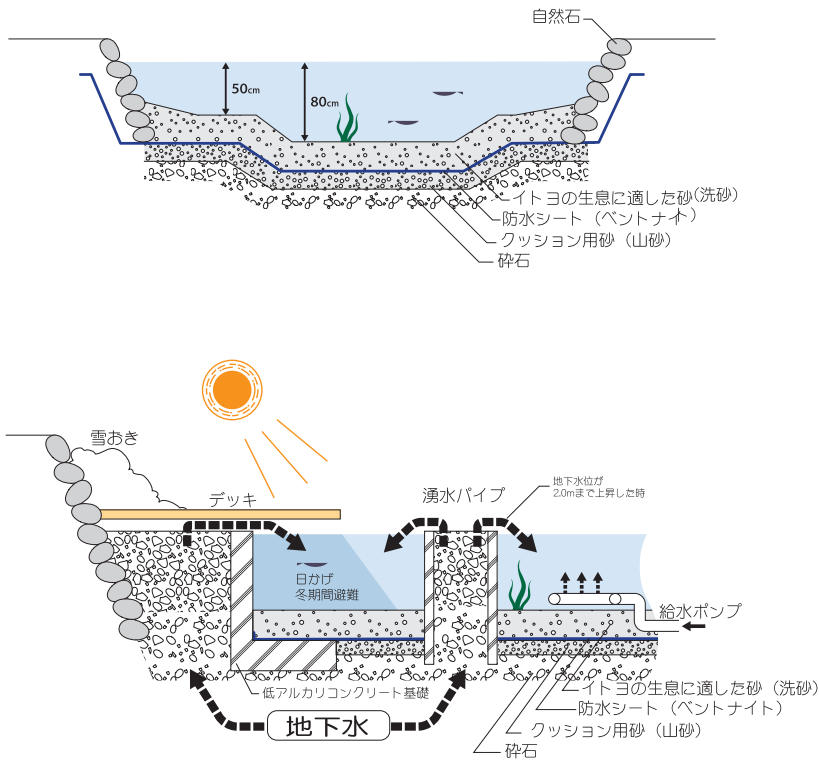
イトヨに適した深さは、約50cmです。本願清水の中央部分には深さ80cmの深いところをつくり、生息環境に変化をもたらすとともに、水鳥などの外敵からイトヨを守るようにしてあります。

●護岸

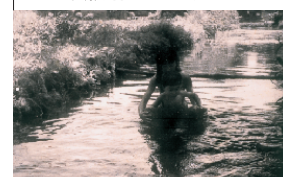
池の岸は、自然石や土などの自然の素材を用い、水中の生き物に適した環境としました。やむを得ずコンクリートを使った部分は、悪影響のあるアルカリ成分の少ないコンクリートを用いています。

●日よけ、雪囲い

「イトヨの里」では季節ごとに日よけや雪囲いを設けなくてもいいように、それに代るものとして、デッキやボードウォークを設置しました。



本願清水で水遊び



昭和30年頃/森川氏 提供



昭和40年頃/岸田氏 提供